

日本看護歴史学会
会報

日本看護歴史学会
第 15 号
1993 年 5 月 31 日

医制一二〇年「産婆制度を考える」

— 現行看護教育制度と

助産婦教育カリキュラムの動向 —

高橋 みや子

第七回大会のテーマは、医制一二〇年「産婆制度を考える」です。大会に先立ち、現行看護教育制度と助産婦教育カリキュラムの動向を簡単に紹介し、問題提起をかねたいと思います。

専修学校設置規程（昭和五一年一月一〇日）の公布以来、看護教育（保助看含む）は殆ど学校教育法第八二条の専修学校で行われてきました。しかし、ここ数年來、急速な変革をとげつつあります。学校教育法第一条の学校である四年制大学や短期大学が増加し、第八二条の専修学校中、専門課程を有する専門学校は短期大学へ移行する傾向にあり、同様に高等課程を有する高等専修学校は専門

学校へ移行するか、廃止される傾向にあり激減の途を辿っています。看護教育が学校教育法第八二条の専修学校から第一条の学校に移行する事は、学校教育制度上、学校教育の傍系から正系へ移行する事を意味します。ここで、看護教育がやっと正規の教育ルートに乗ったあるいは他領域と同じ基盤に立ったと言えます。この様な看護教育制度の一大変革期にあたり、助産婦教育を看護教育制度上どう位置づけるのかに關して、看護界では白熱した論議が交わされています。

まず、助産婦の名称に關しては、助産婦の名称を残すという意見と保助看を統合して一本化しひとつ

の名称にするという意見と、二通りの見解が出されています。

これらの見解と深く関連して、助産婦教育についての考え方は、二通りに分けられます。ひとつは、助産婦は医療法で規定された助産所開設の許可を得られる職業であるから、それを遂行できる能力をもった助産婦の育成を行うと、助産婦の職業教育に焦点を当てた教育観であり、他方は看護学の一領域である母性看護学領域のスペシヤリスト・専門看護婦の育成を行うと、学問としての看護学の専門看護婦教育に焦点を当てた教育観であります。これ等の教育観に基づき教育カリキュラムを構築するに際して、看護教育制度の中に助産婦教育カリキュラムをどう位置づけるかについて様々な検討がなされ、展開されています。

ひとつは、四年制看護系大学の看護基礎教育カリキュラムで行われている方法です。保助看学校養成所指定規則第六條（助産婦学校養成所の指定規程）の別表二 助産婦教育課程を読み替えて、四年間一貫の統合カリキュラムの中で展開し、どうしても読み替えのできない科目および実習に關してのみ母性看護学の選択科目として位置づけられています。

次は、看護婦有資格の学生を対象に、短期大学専攻科および専修学校等の独立した教育機関で行われている方法です。保助看学校養成所指定規則第六條の別表二 助産婦教育課程をほぼ完全に遵守した形の六カ月〜一年間の助産婦教育カリキュラムで、看護基礎教育に積み重ねる教育として位置づけられています。

さらに、大学院修士課程あるいは暫定的措置として大学専攻科で行われる方法があります。医療法で定められた助産婦の開業権を重視し、その教育水準として、米國におけるナースプラクティショナーと同程度位置づけと教育カリキュラムが望ましいとされています。この方法は、学士の看護婦が増加している現在、実施可能なカリキュラムとして検討され、一部の教育機関で実施され始めています。

現在、助産婦の名称・看護教育制度上の位置づけ・教育カリキュラム等をめぐって論議がなされていますが、往々にして感情論に移行し勝ちです。産婆は歴史が長い職業です。職業的発達過程や教育制度成立過程等について歴史を繙き、自己の歴史認識を明確にして思考基盤を確かなものにした上で、論議する必要があると思われま

第七回日本看護歴史学会大会開催日程

「医制一二〇年・産婆制度を考える」

開催期日

八月二十八日(土)、二十九日(日)

会場

神戸市勤労会館

神戸市中央区雲井通五―一―二

☎〇七八―三三―一八八一

参加費(両日共通・当日払い)

会員二千円、非会員三千円

※会員証を必ず携行して下さい。

開催日程

第一日目(8月28日)

13時〜 開場・受付開始

14時〜14時30分

「医制公布以後の産婆制度成立過程について」 高橋みや子氏

14時40分〜16時10分 記念講演

「お産の変遷を調査して

―その方法論を省みる―

女性問題研究者 大林道子氏

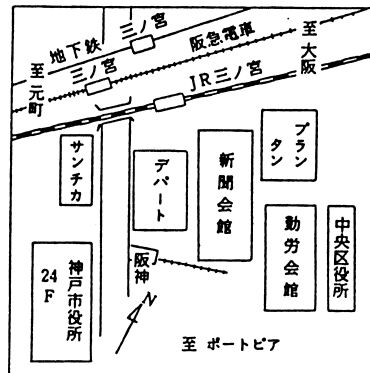
※大林氏の著書『助産婦の戦後』

勁草書房(山川菊栄賞受賞)を

御参照下さい。

16時20分〜17時 第七回総会

会場付近見取図



※新幹線新神戸駅からは、地下鉄で三ノ宮下車して下さい。

第二日目(8月29日)

10時〜10時50分

研究発表 司会 玄田公子氏

11時〜12時 特別講演

「緒方洪庵と適塾(仮)」

仏教大学教授 梅溪昇氏

12時〜13時

サンドイッチパーティ(千円)

13時〜16時

分科会 担当 五十嵐節氏

16時〜16時30分

分科会報告(各グループ)

16時30分 閉会

◆ 研究発表の募集要領について

本会第七回大会の研究報告を募集いたします。発表を希望される方は、次の要領で応募して下さい。応募要領

1. 研究報告のテーマ(看護史に關するものなら可)
2. 報告の要旨(研究の目的、研究の主題をとりまく状況、研究史、研究結果等の概要を四〇〇字詰原稿用紙縦書二〜三枚にまとめたもの)
3. 締切日 六月三〇日(当日消印有効)
4. 宛 先

615 京都市右京区西院月双町111

マンハイム五条309号 亀山方

日本看護歴史学会事務局

※研究発表申し込みと朱書のこと。

◆ 参加申し込み方法

参加希望者は往復ハガキに会員番号(非会員の場合はその旨、記入して下さい)、氏名、住所、参加日、二日目のサンドイッチパーティの参加の是非を記入し、八月二〇日までに事務局宛にお送り下さい。近年、参加の是非が把握できず、準備に手間取っています。

◆ 分科会話題提供者の募集

本会では会員の自由な分科会活動を推進するために大会期間中に交流の場を準備しております。今回の大会の話題提供者になつて下さる方を募集します。応募される方は、次の要領で分科会担当者の五十嵐節氏宛に御連絡下さい。

1. 研究テーマと要旨(二〇〇字詰原稿用紙一枚以内)
2. 締切日 六月三〇日
3. 宛 先

151 東京都渋谷区代々木四―二六―九―四〇九 五十嵐節氏方

◆ 新幹事の顔ぶれ決まる

先に行われた幹事選挙の結果、左記の方々が幹事就任を承諾されました。尚、新幹事の就任は第七回総会の場で承認されたときに決定されます。

五十嵐節氏、鶴沢陽子氏、大平政子氏、岡山寧子氏、亀山美知子氏(留)、草刈淳子氏、玄田公子氏、高田節子氏、高橋みや子氏(留)、依田和美氏(留) 以上一〇名

